

佐倉市立南志津小学校 学校だより



# しいの木 3月号

佐倉市立南志津小学校

☎ 489-3884

児童数 295名

令和8年2月27日発行

## 立場が人を作る

2月8日、日曜日、数年ぶりに雪だるまがいくつも作れるくらいの大雪が降りました。今年も寒い冬です。確か去年も、雪こそ降らなかったものの、とても寒い冬だったように記憶しています。“温暖化”が問題になっていながら、なぜ冬が寒くなるのか・・素人の私にはよくわかりませんが、年々厳しい気候に苛まれる日が多くなっていることは間違いなさそうです。



さて、2月のある朝、登校してきたある6年生が、すれ違いざま「校長先生、4月からも小学校に通っちゃダメですか」とぶっきらぼうに聞いてきました。「なんで？」と返すと「中学生になったら高校受験しなくちゃいけないから」と。そう、その日は千葉県公立高校の受験日。きっとその子自身、または友達のお兄さんお姉さんに受験生がいて、それまでの壮絶な受験勉強の様子や、当日の朝の、それこそ言葉では言い表せないような緊張感のある姿を垣間見たからこそその言葉だったのでしょう。6年生と言っても小学生。その兄姉の様子を三年後の自分の姿に重ね合わせることは難しかったのかもしれません。でも、当然のことですが、三年後、その子も当たり前のように立派な“受験生”となっていることは間違いのないのですが・・・。

よく“立場が人を作る”と言います。もちろんこれは大人の社会の話。でも、子どもにも十分に当てはまる話だと思っています。年度末のこの時期、教室を回ると、5年生の教室では「もうすぐ最上級生なんだから」、4年生の教室に行くと「4月からは高学年だよ」と次の学年を意識しての言葉が聞こえてきます。そういった言葉は「できないことに対する戒め」より「次の学年に向けての希望」のニュアンスの方が強い印象。そして子ども達も「よし！」と目をキラキラさせてその言葉に耳を傾けているのです。

フランスの作家サン＝テグジュペリは著書「星の王子さま」の中で「ほんとうに大切なものは、目に見えない」と言っています。何をやった、何ができた、という表面的なことは目に見えても、どんな気持ちで、どんな思いで、といった本質的なことほど目に見えないということでしょうか。

子ども達の“頑張る姿”は目にすることができても、子ども達の気持ちの中にある“頑張ろうとする思い”や“自らを奮い立たせる勇気”は目にすることができません。でも、目に見えないからこそ、その思いがかえってストレートに伝わり、私たち大人の気持ちが揺さぶられるのではないかと感じます。

新年度が始まれば、新しい担任の先生、新しいクラスに戸惑いながらも気持ちを奮い立たせ、また頑張ることでしょう。そんな子ども達の、目には見えない思いを感じ取りながら、4月からもまた、子ども達に寄り添っていただければ幸いです。

最後となりますが、今年度も、保護者の皆様ならびに地域の皆様には、本校の教育活動に多大なるご支援とご協力を賜り、本当にありがとうございました。次年度も変わらぬご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。